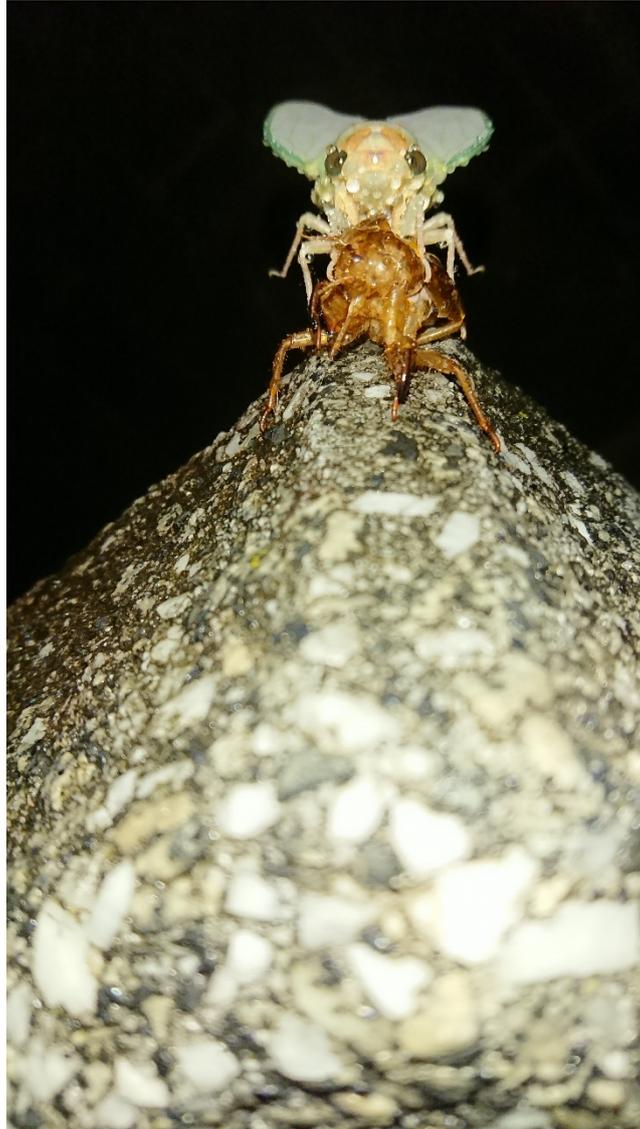


作品 No.246



生きものの“つぶやき”:

**「どうよ、私の体、蛭みたいでしょ…大丈夫なの!？」**

エッセイ:

ずるっ。がっしやああん。「…いったあ…」ボート部の活動を終えて、ふらふらになりながら自転車を漕いでいた私。嫌な予感にしたものの、急なカーブをそのまま通行しようとしたら見事に転倒した。右の膝からは早くも大量の血が滲み出している。傷口を洗い流すために近くにあった公園に飛び込んだ私は、思わず足を止めた。「うわあ…！」蛇口のすぐ側に、現在進行形で脱皮をしているセミがいたのだ。エメラルドグリーンに艶々と輝く羽。黒く潤

んだつぶらな瞳。妖精のような姿のセミが殻からゆっくり、ゆっくりと体を引き出す姿に、息すら止めて見入っていた。ふと、幼虫が動きを止めた。心配になり思わず身を乗り出すと、右膝に視線が突き刺さった。見れば、右脚は血塗れになっている。うめき声を上げながらセミ子(命名した)に「ありがとう」と言った。早朝、自転車を飛ばしてセミ子を探したが、彼女はいなくなっていた。きっと青空を飛んでいったのだろう。(400字)

#### 生きものの紹介:

セミ

#### 撮影場所・日時:

富田公園・2020年7月26日

#### 応募者の自己紹介:

1. 渡邊美愛／愛知県立旭丘高等学校 1年
2. 所属：生物部、数理科学部、漕艇部
3. 将来の夢：世界中の子ども達の笑顔と未来を守る小児内科医になること

#### 審査委員会からのコメント

セミの脱皮の瞬間を斬新なアングルからとらえています。教科書に載せたいような一枚。